

施策評価シート (平成25年度の振り返り、総括)

作成日 平成26年 06月 25日

施策 No.	12	施策名	文化財の保護と継承
主管課名	文化課	電話番号	0285-83-7731
関係課名	生涯学習課		

施策の対象	国・県・市の指定文化財及び登録文化財								
対象指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度見込
指定文化財及び登録文化財数	件				227	227	227	227	230

施策の意図	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を適切に保存管理し次の世代へ引き継ぐ。 ・身近な文化財に親しむことで郷土の歴史や文化について理解を深めるとともに、「文化財の保護と継承」の普及啓発を行い豊かな心を育む。 								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財の保護については、毎年度末の指定及び登録文化財件数をもって指標とする。 ・文化財の継承については、指定無形民俗文化財保存団体の構成員数をもって指標とする。 ・文化財に興味や関心を持つ市民については、歴史教室参加者数をもって指標とする。 ・文化財を保護する市民の割合は、市民意向調査をもって指標とする。 								
成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度基本計画目標値
指定文化財及び登録文化財数	件				227	227	227	227	240
指定無形民俗文化財後継者数	人				171	169	206	192	250
歴史教室参加者	人				487	502	578	580	300
文化財を大切にしたいと感じる市民の割合	%				92.3	92.4	93.3	92.0	95.0

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者（管理者）及び保存団体は、文化財を適切に保存管理するとともに市民に公開するため必要な事業を行う。 ・市は、文化財所有者（管理者）及び保存団体が実施する保存管理や公開の事業について指導助言し必要に応じて事務手続き等を支援するほか、歴史教室などを開催し文化財の保護や啓発の機会を提供するための環境を整備する。 ・市民は、身近な文化財に触れることで郷土の歴史や文化への理解を深め、文化財を保護継承することの大切さを認識する。 								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（１）施策成果の時系列比較（過去３年間の比較）

指定文化財については、平成21年の二宮町との合併により文化財が230件となった。平成22年度に滅失や倒木の為3件を指定解除した。平成23年度は2件解除、2件指定を行った。

また、無形民俗文化財後継者については、保存団体が熱心に育成活動を行っていることで中学生の後継者が増加した。しかし、近年の少子化、価値観の多様化や地域コミュニティの希薄化により今後大きな伸びは難しいと思われる。

なお、歴史教室などへの参加者は毎年増加していることから、郷土の歴史や文化に対する市民の興味や関心は高い。

（２）近隣他市との比較

・本市の指定文化財件数は県内14市の中で6番目に多い地域である。
・文化財に興味や関心を持つ市民の割合などについては、近隣市町村での調査が行われていない為、比較することは困難である。

（３）住民期待水準との比較

26年度の市民意向調査では文化財を大切にしたいと感じている市民の割合は92.0%であり、ここ数年間90%を超えた数値で推移するなど市民の文化財愛護に対する意識は高い。

これは、文化財を活用した事業の実施のほか、歴史教室や文化財めぐりなど、郷土の歴史や文化の大切さをわかってもらう為の啓発事業を継続していることも大きな要因といえる。

25年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・指定文化財については、25年度は新規指定、指定解除ともなかった。
・修理については、専修寺三谷草庵第2期保存修理事業（国指定）、長沼八幡宮隨身門（市指定）ほか3件の修理を実施した文化財の所有者（管理者）に対し、国庫・県費の補助金交付手続きを指導したほか、国庫・県費補助金を除いた経費の1/2について上限500万円の範囲内で市費補助金を交付するなどの支援を行った。
・無形民俗文化財保存団体が実施する後継者育成事業に要する経費の一部を補助金交付し支援した。
・郷土の歴史や文化財に対する市民の理解を深めるため、文化財めぐりを2回実施したほか歴史教室を6回開催した。
・文化財愛護や保存に対する市民の意識高揚のため、国の登録文化財である久保講堂を活用し市民の芸術文化活動の成果を展示公開した。岡部記念館「金鈴荘」については、震災で被災した建物を平成24年度に修復し、平成25年4月から一般公開を再開した。
・国指定史跡である桜町陣屋跡の適切な保存と、活用を図るため、地域の諸団体と、公募による一般参加者が協力して江戸時代に近い米作りを行う体験型の文化財活用事業を実施した。
・平成26年度に開催される全国報徳サミット真岡市大会に向けて、実行委員会を組織し準備を進めた。

<p>25年度の 評価結果</p>	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p>
	<p>課題認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の保存管理や修理に要する経費負担が大きく、補助金の増額や事務手続きの簡素化について所有者(管理者)からの要望が多い。 ・ 無形民俗文化財後継者は、今後も少子化や価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化により大きな伸びは期待できない。 ・ 文化財に対する市民の関心は高いと思われるが、郷土の歴史や文化財に対する市民の理解を深めるために実施している文化財めぐりや歴史教室の参加者はわずかな増加にとどまっている。 <p>改革改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の計画的な修理を行うため、所有者(管理者)と連携し国や県への予算要望段階から指導支援していく。 ・ 無形民俗文化財の後継者対策としては、今後も育成費用の一部を支援する。 ・ 無形民俗文化財のビデオライブラリーを作成し、後世に記録保存するとともに、いちごテレビ等で紹介し文化財の素晴らしさの周知を図る。 ・ 文化財めぐりや歴史教室は郷土の歴史や文化財を理解するため有効であることから、新規の参加者を増やすため参加者アンケートなどを参考として内容を充実していく。
<p>補足事項</p>	